

# かよの平和行進ニュース

～原水爆禁止2005年国民平和行進特集～

NO. 35

2005/8/10 水島平和委員会

## 『継承と目覚め、決意の年』



晴れ 歩数・Kcal 測定なし

分科会2 “核兵器のない平和で公正な世界へ行動と共同を” 9:30～15:00

参加者 72名

平和委員会交流会 16:00～18:00 参加者 56名

今日から歩かないのは気が抜けたようで寂しい。分科会では後藤さんと一緒になった。梅川さんや山崎さんはどうしているだろう？明日には会えるかな？

今日の分科会では東京原水協の安藤さんが問題提起を行い、関西学院大学の富田先生が情勢報告を行い質問・意見・報告などが行われた。ある青年が“核兵器はなくせる様な気がするが戦争は無くならないだろう。公正という世界は無理だ。人間は欲なものだから・・・”と意見があった。その意見には富田先生が核抑止力論を用いながら答えた。戦争や公正の定義や意味するところを話してくれて私の頭の中もスッキリした。『公正を実現すれば戦争は必ず減っていく』という言葉に方向性や希望が見えた。立命館大学の学生は“軍事産業に携っている人たちの事を考えると・・・”という意見を持っていたが、新婦人の方が『軍事費として使われる膨大な費用があれば生活を豊かにするための仕事ができる。大丈夫です！』と言われ私としては拍手っ！青年達は理解しただろうか？青年達は不安を抱えながら平和活動をしていることが良く分かる言葉だったのではないだろうか。他には“核は有効利用ができるのか？話し合いだけで解決できるのか？(中略)”という質問があったが、この場で質問する意図が理解できなかった。

この分科会に被爆2世の村上あつ子さんが“父親が横川駅(爆心地から1.5km)のホームで被爆しベンチの下に潜り込み、爆心地に背を向けていて無傷だったのは珍しい。壊れたベンチから這い出して線路づたいに家に帰ってきた。父親に赤紙が来て挨拶をしに祖母の所へ行く途中に被爆した。父親が小学5年生のときに話してくれた。ショックだったのは自分は関係ないと被爆に対して関心がなかった事だった。広島市の被爆者の平均年齢は72.4歳で2世が継承していかななくてはならないと思っている。ハンフォードでは被爆者を作り出されていた。広島の被爆者は自分達のような思いをさせたくないと思っているのに世界

にはそのような状況がある。60年間、原子爆弾は使われていない。それは私達の活動があったからだ。今後も宜しく・・・”と涙ながらに訴えた。感慨深いものがあった。

夕方には各地の平和委員会との交流会に行った。フランスの代表4名が参加し、フランスでの平和活動を紹介してくれた。フランスは22自治体がある中で21自治体が革新市制だと聞いて驚いた。代表も自治体の予算から参加している方もいるらしい。フランスの平和活動が活発になっている事が良く分かった。話しが聞けて良かったと思う。行ってみたいかも・・・(笑)



晴れ 歩数・Kcal 測定なし

午前 8:00～ 広島祈念式典 10:30～ 被爆60年ヒロシマデー集会

19:30～ ヒロシマデー とうろう流し

今日も朝から太陽が照りつけている。60年前のこの日も太陽が照りつけていたのだろう。祈念式典をテレビで見た。秋葉市長の平和宣言『継承・目覚め、決意の年』

(裏へつづく...)



でキャンペーンを行うと力強く挨拶をした。広島の子も達も核兵器廃絶を力強く訴えた。しかあ～っ！小泉は終始下を向いたまま、はっきりしない表情でボソボソと書いてあるものを読んだというだけの様に見えた。頭の中は来週の郵政法案決議の票の取りまとめと造反者の処分、解散の事でいっぱいなのだろう。心のこもってない言葉が並び“核廃絶の為に・・・”なんて言うから余計に腹が立つ。小型核兵器の開発を進めているアメリカに追随することしか知らない日本政府が綺麗ごとを言って体裁を保とうとしているだけだった。それがまた腹が立つ～（怒）！小泉い～（怒）！！恥ずかしいから出くんあ～（怒）！ヒロシマデーでは力強い参加者の行動によって成功を収めた。明日からは長崎だ。この勢いをそのままに長崎集会は成功すると思う。



夕方からは“とうろう流し”に行った。川の流れが速く、風もあった為、倒れてしまう灯籠が多かったが、原爆ドームの前を流れる灯籠はどこか神秘的だった。60年前、この私が立っている場所にいた何十人、何百人、何千人の人たちの尊い命が一瞬にして奪われた。正確に言えば核による人体実験でデータが



欲しいために投下した原子爆弾によって命を奪われた。当時のアメリカは日本人を人間とっていなかった。人の尊さを知らなかったというのだろうか。自国の人たちでさえ核実験の犠牲にしても何とも思わないのがアメリカ政府だ。今も被爆者が一番多いのはアメリカだ。核保有超大国アメリカ政府はこの核廃絶の流れをどうみているのだろうか？平和活動をしている団体は私達のような団体と同じ対応を受けているのだろうか？ニューヨークではそこまで見れなかったので知りたいと思う。

さあ！車で長崎へ！



晴れ 歩数・Kcal 測定なし  
 午後 15:00～15:50 原水爆禁止2005年世界大会（長崎）  
 16:10～18:00 「核兵器のない世界を 文化の夕べ」  
 参加者 4500名  
 岡山県代表团交流会 19:00～

今日から長崎での世界大会が始まった。長崎のつどいでの第1部では、広島と違ったプログラムで短く構成されていた。広島での大会と国際会議の報告を安齋先生が行った。長崎の伊藤市長が挨拶に立った。広島での平和市長会議を受けての挨拶は今後の活動に勇気と希望が持てるものだった。世界中が注目している平和活動に参加できている自分に誇りが持てた。



第2部「核兵器のない世界を 文化の夕べ」での『平和の旅



へ』では、12年前に亡くなった長崎の被爆者の渡辺千恵子さんの被爆から平和活動を行うようになった半生を歌と音楽、朗読で紹介された。壇上の車椅子には渡辺千恵子さんの遺影が置かれていた。久しぶりに渡辺千恵子さんの笑顔を見た。この笑顔に何度となく励まされた。沢山の人の渡辺千恵子さんの生涯を知ってもらいたいと思う。今回の大会で初めて『平和の旅へ』を聞かせて貰い感激だった。本当に嬉しかった（泣）。第2部の最後には沖縄読谷村の子ども獅子舞があり大きな盛り上がりとなった。